

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や必要性について、職員は徐々に理解してきている。理念を掲げていることは分かっているが、日常業務において意識して取り組んでいる職員は少ない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には施設で入会しており、施設広報紙（ゆうゆう便り）を回覧板に挟むなど、施設の入居者の生活状況を地域の方々に多く知ってもらうような取り組みをしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	散歩を通して、地域高齢者と接する際の仲介等は実施しているが、コロナ禍という事もあり頻度は以前と比べ減少している。又、その場のみの関わりで地域への認知症の理解や支援方法に繋がっているとまでは言えない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染リスクに考慮し、昨年度の会議は『施設集合開催』を4回、『紙上開催』を2回実施している。運営推進委員に、より深く議題の内容を理解してもらえるよう、資料の充実を意識して作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現場の職員は行政と直接関わることは少ないが、管理者と事務職は新型コロナウイルス感染対策の情報提供を受けたり、災害時に避難先へ移動した際の報告をするなど、市町村とは様々な活動・情報交換を行い連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを継続できるように、3ヶ月に1回の間隔で適正化を目的とした勉強会・検討会を開催している。入居者個人の意思を尊重しながら、主体的に活動できるよう支援しており、その行動が人命を脅かす危険な行為でない限りは抑制しないようにしている。（現在、危険な行動はみられていない為、拘束を実施していない。）		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の延長で虐待が発生する事が多いことから、身体拘束廃止委員会を中心に虐待や人権擁護に関する勉強会を定期的に開催している。自分たちの日常の行動を検証しながら振り返り、人権を尊重した介護や生活支援を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修会等は、現在実施できていない。仮に研修会等を開催しても、少数の職員は制度内容の理解はできるが、他の多数職員は制度が複雑であるため理解困難・学びに消極的な状況がみられる可能性が高い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者本人にも説明をするが、本人の意思よりも家族が最終的に決定・契約しているのが実情。制度改定・利用費等の変更がある際は、書面も含めた十分な説明を行う事を心掛けているため、家族も納得してくださっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、認知症で意思表示や表現が上手くできない為、支援者側が利用者の表情や行動を観察し、ニーズの改善に心がけている。ご家族には、施設に設置しているご意見箱やICTを活用してご意見・要望等はないか積極的に尋ねている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職員会議を定例化し、管理者は職員の意見に耳を傾け、働きやすい職場づくりに配慮しながら運営している。職員から出された意見や要望は、管理者の判断あるいは代表者に上申して対応を検討し、施設運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、人事考課制度を導入しており、職員の能力や実績、勤務態度などを評価している。また、代表者も人員配置や職場環境、雇用条件などに理解を示し、グループホームとしての運営や活動の実績についても一定の評価を得ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者の指示のもと、管理者が職員を対象にした勉強会に参加する機会を設け、職員の知識・介護技術等の向上に繋がるよう取り組んでいる。新型コロナウイルスの影響で、法人内の勉強会が大半を占めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、新型コロナウイルスの影響で、グループホーム協議会や地域密着型サービス事業者連合会などの各種研修会や講演会にはあまり参加できておらず、他事業所との連携や親睦・交流を図れていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人と関わる機会(時間)が少なく、信頼関係の構築が難しい状況が課題と感じる。本人の意思で入居する利用者が少ない中、環境に慣れるまでは家族と職員が連携して関わりながら、不安解消や問題解決に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込書を提出されてから入居に至るまでの間、家族と関わる機会(時間)はほぼなく、初期の段階から家族との信頼関係を構築するのは極めて難しい状況にあると感じる。入居理由は、家族の不安解消や介護負担軽減が主で、入居によって家族の不安や負担はある程度軽減できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けたとき、大半は住み慣れた家でその人にあったサービスを提供できる場合が多くある。まずは在宅サービスを中心に利用するよう案内(紹介)している。在宅サービスを利用してもなお自宅生活が困難な時は、施設入居の案内を最終的にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、共に支え合って生きる『共助』の関係にあると考え、人として対等な立場の支援に心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も本人を支えるケアチームの一員として位置づけ、家族だからできることをお願いしている。職員は家族ができないことを側面から支える気持ちで支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年度までは、新型コロナウイルスの影響で馴染みの人や知人との面会ができていなかったが、今年度は面会制限を緩和し、対面式で面会できている。又、今後は思い出の場所にもお連れしていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者同士が関わり合う(支え合う)場面づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了するのはほとんど死亡されるケースが多く、残された家族は徐々に足が遠のく状況が多い。家族は高齢や遠方の方が多いため、仕方がない事とも考えられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、望む暮らしを送れるようにアセスメント時に主に把握している。困難な場合は、ご家族から情報を収集したり、生活の中で言葉・仕草・表情が変化する場面を見逃さないよう意識している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族面談で、日々の生活リズムなどの情報を入手し、親戚や知人などの面会・訪問時には、家族には見せない言動や趣味活動時の様子等の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通して個々の行動を観察し、過ごし方や心身状態を把握している。前日には見られなかったような動作や言動が多くみられる。職員間で情報交換・共有しながら、24時間の状況を把握できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やスタッフミーティングで、本人も交えた意見交換を実施し、ご家族からは、来所時に意向確認をしている。また、職員は研修や経験などで得た事などを参考にしながら、本人のニーズに添ったプランニングを心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット間で開催しているスタッフミーティングを、主に介護計画の見直しに活用している。介護記録をはじめ、モニタリングなどから個人の状態を把握・共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人としての特性を活かし、病院や訪問看護が協力医療機関としての健康管理や救急時対応を担っている。又、介護老人保健施設とは、行事交流を図れたらと考えているが、最近の実績がない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防などは、安心・安全な生活を営む上で必要不可欠であり、徘徊や行方不明の際の徘徊SOSネットワークによる捜索要請のための情報提供、防火・防災訓練の指導などで連携している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族希望にて、併設病院の医師を主治医と選定している。又、併設病院にない診療科については、家族や本人・かかりつけ医・施設スタッフで検討し、専門病院などを選択している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日中院内で働くだけでなく、情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を導入し、併設の病院に加えて訪問看護サービスとの連携を図り、医療管理はもとより健康管理も充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入退院を、施設管理者と併設病院の医師・地域連携室で調整支援している。退院の際も、事前に施設側・訪問看護ステーションへの情報提供もあり、安心して早期退院・回復が可能となっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は実績はないが、寝たきりや看取り介護、終末期医療の可能性が予測される入居者に対しては、本人・家族の意向を入居時に確認し、理解と協力が得られる場合は、医師や看護師も交えた具体的な対応を話し合い、前向きに検討しながら取り組んでいく体制ができている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置セットやAED(自動体外式除細動器)、吸引器等を常備している。また、こうした機器を使った訓練や講習を実施している(吸引器は看護師資格所持者のみ使用)。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	過去に水害に遭っている地域でもあるため、今後も引き続き地域と連携した避難訓練や具体的に意見交換を実施する必要があると感じる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮しながら対応しているが、行動障害があり目が離せない入居者に対しては、安全対応を優先する事も時折ある。ただし、入浴や排泄介助については、羞恥心に配慮しながら“さりげない”対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人それぞれ生活習慣が違うことを理解し、介護者主導で生活をするのではなく、入居者自身が主体的に活動できるように心がけている。個々の能力に合わせた対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の能力や意欲に応じて、本人のペースに合わせた対応に努めているが、入居者の入浴日時や排泄管理など、職員(事業所側)の都合で曜日や時間を設定している日課や支援もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	普段は、服を選んだりして整容の支援を行っているが、化粧をすることは少なく、髪を梳いたり歯磨きや洗顔以外は鏡に向かう場面が少ない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることが何よりの楽しみなので、入居者の好き嫌いを把握し、旬の食材を使った味付けや彩りに配慮している。介護度の重度化で“上げ膳”“据え膳”が日常的になっており、入居者もそれを望んでいるのが現状である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量や嗜好などを把握しているほか、個別に水分摂取量を確認している。又、細かな声かけや介助、食事形態の工夫をして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがい・義歯の手入れの励行を声かけ・見守り・介助している。また、口腔状態に応じて必要な方には訪問歯科診療を受けてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は自己管理能力や排泄パターンに応じて排泄用品の提供・服薬(緩下剤)・声かけ・誘導・排泄チェックを行っている。なるべく薬を使わない“自然排便”に取り組み、おむつは使わないように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤や整腸剤などの服薬による排便調整を行っているが、なるべく自然排便を促すために個別に牛乳やヨーグルト、繊維類(イモ類)の摂取、水分補給、運動(活動)を促しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴回数は週3回を基本に臨機応変に対応できるが、入浴時間帯は日中に限られる。24時間温泉を使用できるが、朝夜は人員体制の関係で実施していない(できない)。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと居室で昼寝をしたり、くつろげるよう、安静・安眠できる照明や生活音の調整、寝冷えや脱水を起こさないように空調管理にも配慮している。睡眠導入剤を安易に使用せず、自然の眠りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類・効能・用法・用量は主治医の指示のもとで管理しており、服薬内容は介護職員にも周知したうえで、適切かつ確実に服用されている。また、家族には定期的に服薬内容を情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力、関心、意欲などに応じて日課や役割、趣味活動などの支援を行っている。中には、職員の支援を待つのみの利用者もあり、自主性や協調性、関心や興味、意欲や満足感(達成感)を引き出せないまま終わってしまう場面(状況)もある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度より、利用者の希望を加味した外出計画を立てており、少しずつではあるが、外出する機会が増えてきている。今後は、家族・地域の協力を得ながら、外出を支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭への執着や管理能力は一部の入居者に限られ、ほとんどは職員や家族が購入したもので生活している。お金に困ることがない環境と買いたい(欲しい)ものが無いせいか、金銭感覚や使う意識が薄れていると感じる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族への用事や近況報告、帰宅欲求への対応などで電話をしたり、写真を添えたポストカードを作って近況報告の支援を行なっている。また、ICTを活用してテレビ電話を実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を兼ねたフロアは広い空間を確保しているが、人気がないと開放感より不安を感じるので、職員は空いた席に座って一緒にテレビを観たり、会話を楽しんで、孤独にならないよう配慮している。夜間は部屋からトイレへの通路で転倒しないよう照明に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(食堂・フロア)としての“集いの場”に対し、個人や少人数でくつろいだりする空間、プライバシーの確保は自室(個室)以外にスペースはなく、工夫に至っていない。どちらかといえば職員側にとって入居者の所在確認や見守りしやすい環境になっていると感じる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族へ本人の馴染みの物や思い出の品を持参していただくよう働きかけている。しかし、現実には持ち込む負担や見た目を気にして、ホームの備え付けで済ませたり、新しく買い揃える家族が多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置、個々に合った自助具を選定して個々の生活動線を確保し、安心と安全の生活（活動）ができるよう、その人の能力や意欲に合った環境整備を心がけている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない